

## 文の理解と語順

### ——ヲ格連続を中心に——

文 智 暎

キーワード：文の理解、ヲ格連続、様態、道具、継起

#### 要 旨

文 2005 では、従来単文中の制約として扱われてきた「二重ヲ格制約」を取り上げ、単文だけの制約ではなく複文にも適用される制約であることを指摘した。一方で、「フランスはスペインの独立要求を武力を使って封じ込めた」のような例では、例外的にヲ格連続の方が自然である。本稿では、このような現象を統一的に説明するため、まず、「A. 単文か複文かに関係なく、ヲ格連続は避けられる」「B. A にもかかわらず、ヲ格連続を積極的に妨げない場合がある」という二つの仮定を立てる。実証手順として、実例及び作例による、4 回にわたるアンケートを行い、文 2005 の指摘が正しいことを再確認する。これを前提として、反例に見える上記のようなヲ格連続の例は、伝えようとする内容をより分かりやすく伝えられるというような目的で、積極的にヲ格連続が選ばれているのである。

#### 0. はじめに

文 2005 では、従来単文中の制約として扱われてきた「二重ヲ格制約」を取り上げ、単文だけの制約ではなく複文にも適用される制約であることを指摘した。しかし、次のような例文では、ヲ格連続は自然である。

- (1) フランスはスペインの独立要求を武力を使って封じ込めた。
- (2) 直子は雨の中を子供を捜して歩いた。

このような現象を検証するに先立て、以下のように仮定を立てる。

- A. 単文か複文かに関係なく、ヲ格連続は避けられる。
- B. A の規定にもかかわらず、ヲ格連続を積極的に妨げない場合がある。

A については、文 2005 で検証した。本稿では、A について再確認し、どのような場合、B が適用されるのかについて検討したいと思う。

## 1. 文2005のまとめ

### 1.1 アンケート

文 2005 では、日本語母語話者に、下記の例文(3)(4)(5)を提示して、次のような質問をした。

質問：(3)(4)(5)に続く部分を書いて、文を完成させなさい。

(3) グラウンドを花子を \_\_\_\_\_

(4) 雨の中を公園を \_\_\_\_\_

(5) 太郎を花子を \_\_\_\_\_

(3)に対しては「走らせた」「歩かせた」等の回答が得られ、(4)に対しては「走りまわった」「歩いた」「探した」等の回答が得られた。しかし、(5)に対しては有効な回答が得られなかった。このような結果から(3)(4)と(5)の間に大きな差があると考えられる。(3)(4)のヲ格連続は聞き手(または読み手)のパーキングに大きな支障を与えないが、(5)はパーキングが困難である。単文では処理できないのであれば、複文にして処理すればよいはずであるが、有効な回答が得られなかったということは、複文として処理することは困難であるということである。これをまとめると次のC,Dのようになる。

C. (3)(4)は比較的容易に処理できるのに対し、(5)は処理できない。

D. 二重ヲ格制約が複文にまで及ばないのであれば、(5)は複文として処理することができる。しかし、回答から考えると、そのような処理は容易にできないことが分かる。このことから、(5)は単文・複文にかかわらず、聞き手(または読み手)に大きな負担をもたらすと考えられる。

以上の分析を踏まえて、文 2005 では、コーパス調査を通して、上記の C、D を検証した。

## 1.2 コーパス調査

文 2005 では、コーパス資料として、新潮文庫 100 冊 CD-ROM 版(作家：明治生まれ以降、作家 38 人の 69 作品)、朝日新聞 1991 年 天声人語・社説、毎日新聞 2000 年 5 月の記事全般を使って調査を行った。コーパス資料の中で、単文か複文かという文の構造を考えず、述部を挟まずに、ヲ格名詞句が二つ以上連続したものを採集した。例文を分析して、次のような結果が得られた。

- E. 単文か複文かに関係なく、ヲ格連続は「状況ヲ」>「場所ヲ」>「対象ヲ」という順序になる傾向がある。
- F. 複文であれば、容易に出現できるはずの「対象ヲ」の連続も、基本的には避けられる傾向にある。このことから、ヲ格連続は文構造から分析するだけでは十分ではない。よって本発表では情報構造\*<sup>1</sup>を用いた分析を採用する。
- G. 「対象ヲ対象ヲ」が避けられるのに対し、「場所ヲ対象ヲ」の組み合わせは比較的許容されやすい。
- H. 「状況ヲ」「場所ヲ」は何らかの舞台設定を果たし、その舞台の上で対象への働きかけが生じるというような構造であると考えられる。

以上のような分析から、従来単文か複文かという違う別々の構造と考えられた(6)(7)は、情報構造の観点から見た場合、同様な構造と見なし得ると考える\*<sup>2</sup>。

- (6) 太郎が雨の中を子供を捜す。
- (7) 太郎が雨の中を子供を捜して歩く。

---

\*1 情報構造とは、語順に反映される文の理解の構造であり、いわゆる[新情報][旧情報]または[未知][既知]という情報の性質とは違う概念である。

\*2 これに関して井上優先生から、以下のような例文も(6)(7)と連続的ではないのかというコメントをいただいた。

- (i) a. 子供に本を読む。  
b. 子供に本を読んでやる。
- (ii) a. お父さんに布団を敷く。  
b. お父さんに布団を敷いてあげる。

つまり、(6)のような例文は、従来、単文中の「二重ヲ格制約」の例外として扱われてきたが、(6)が自然な文として捉えられるのは、話し手または聞き手が(6)のような文を(7)のような構造として捉えているからであると思われる。

## 2. ヲ格連続の許容度調査 1

本稿では、文 2005 を承けて、アンケートを行った。以下に結果を示す。アンケート 1 では、日本語母語話者 29 人を対象として実例のヲ格連続の許容度を調査した。アンケート 2 では、日本語母語話者 37 人を対象として、アンケート 1 のヲ格連続を解消して許容度を調査した<sup>\*3</sup>。

### 2.1 アンケート1：ヲ格連続の実例の許容度調査

アンケート 1 の結果は次の〈表 1〉である<sup>\*4\*5</sup>。

〈表1〉アンケート1(ヲ格連続の実例の許容度調査)

No	例 文	○	△	×	平均値
1(8)	院長は講堂のなかを後手を組んで歩きながら考えた。	86%	14%	0%	93
2	利兵衛は雨のなかを駅前広場を横切って走って行き、知りあいのラーメン屋で金をこまかくしてきた。	66%	28%	7%	80
3	それほどの時間を、本を読むでもなし、楽しみに費う金もなく、時たま柏木と話すばかりには、私は一人で何もせず <sup>1</sup> にいた。	76%	24%	0%	88
4	菅野康三郎は遠い徑のりを電話をかけたに行っていてまだ戻っていなかったのである。	76%	21%	3%	87
5(13)	光秀は、北国街道を夜を日について北上しつづけた。	24%	52%	24%	50
6	部落長の息子の少年は仲間から離れ、坂の急な石道を林をぬけて駆けあがった。	59%	27%	14%	73

\*3 「ヲ格連続を解消する」ということは、「N1 ヲ N2 ヲ V2V1」のようにヲ格が連続している複文を「N2 ヲ V2 N1 ヲ V1」のように、ヲ格が連続しないように語順を入れ替えることである。

\*4 表の「○」は自然、「△」はやや不自然、「×」は不自然に対応し、全回答数に対する百分率を示した。

\*5 平均値は「{(自然×2)+(不自然×1)}÷2」で計算した。

7	日の下を羽を光らせながら飛んで来た蜂がさつきの花に、少しためらうようにしてから止まった。	66%	34%	0%	83
8 (9)	しかし、街燈に照らされた夜の道を、袋をかかえて歩いてゆくとき、彼の心は物悲しさで一杯になった。	97%	3%	0%	99
9 (14)	船台には、壮大な鉄の構造物に二千名近くの技師・工員たちが、蟻の群れのようにむらがり、クレーンは上方を大きな鉄材をつかんで往き来していた。	45%	45%	10%	68
10	敷石道を足をすべらせないように注意して黙りこんだまま歩きはじめると、陽が濃い霧の層を透かして、熱気のある強靱な光を僕らに投げかけた。	76%	21%	3%	87
11	烈しい感情が胸の底からつきあげ、杖で体を支えてまだ雨水の溜っている斜面を幾度か足をふみすべらしながら、私の教区に向けて—そう、それは主から委ねられた私の教区でした—駆けおりました。	79%	14%	10%	86
12 (10)	めん類を音を立ててすすり込むのは、日本人独特の食べ方で、外国人はこの音に不快感を示すそうである。	100%	0%	0%	100
13 (11)	その夜、彼は「鉄の槌」のスタンドで、背の高い椅子に坐り、一杯のウイスキーを時間をかけて飲んでいった。	100%	0%	0%	100
14 (12)	厚生省は介護保険のスタートから2週間、市町村窓口に寄せられた苦情などを都道府県を通じて集計した。	97%	3%	0%	97
15	藤原夫人は東夫人を、広い邸内の林を抜けて送って行った。	59%	41%	0%	80
16 (15)	つまり、あまりの強風が火焰の波を低い谷間をとびこえて通過させてしまったのだ。	24%	62%	14%	55
17	こんなにも烈しく、悲しみと喜びの二つの共存を言葉を使わずに人間に教えることが出来たのであろう。	90%	3%	7%	92
18	約半月乾しあげたのを塩と糠をまぜて樽に詰めて漬ける。	59%	31%	10%	75
19	バルトの独立要求を武力を使って封じ込めている最中、北方領土での国境変更を国民に説得する政治指導力があるのだろうかとの見方も否定できない。	86%	14%	0%	93
20	ヨーロッパは、この「キリスト教徒の敵」の死を、たいまつを焚き花火を打ちあげて祝い、教会は、神への感謝を捧げる人々で埋まった。	79%	24%	0%	91

※各例 No の括弧内の数字は本文の用例番号に対応している。以降の表も同様である。

まず、ヲ格連続の許容度が高い例(許容度の平均値 90 以上)から見てみたい<sup>6</sup>。

\*6 括弧[ ]の中の数値は許容度の平均値である。

- (8) 院長は講堂のなかを後手を組んで歩きながら考えた。[93]  
 (アンケート 1 : No.1)
- (9) しかし、街燈に照らされた夜の道を、袋をかかえて歩いてゆくとき、彼の心は物悲しさで一杯になった。[99](アンケート 1 : No.8)
- (10) めん類を音を立ててすすり込むのは、日本人独特の食べ方で、外国人はこの音に不快感を示すそうである。[100](アンケート 1 : No.12)
- (11) その夜、彼は「鉄の槌」のスタンドで、背の高い椅子に坐り、一杯のウイスキーを時間をかけて飲んでいた。[100](アンケート 1 : No.13)
- (12) 厚生省は介護保険のスタートから 2 週間、市町村窓口に寄せられた苦情などを都道府県を通じて集計した。[97](アンケート 1 : No.14)

例文(8)は許容度の平均値が 93、(9)は平均値 99、(10)(11)は平均値 100、(12)は平均値 97 である。その中で(8)(9)はヲ格連続が「場所ヲ対象ヲ」の順であり、1.2 節の E で示したように「場所ヲ」が先行しているので、許容度が高いのであろう。例文(10)は「対象ヲ対象ヲ」で、同じタイプのヲ格名詞句が二つ並んでいるが、「音を立てて」が慣用句的で一まとまりになっていることから、許容度が高くなると解釈される。(11)も「対象ヲ時ヲ」で、「対象ヲ」が「時ヲ」に先行しており、E には反しているが\*7、「時間をかけて」もやはり慣用句的である。(12)も「対象ヲ場所ヲ」で「対象ヲ」が「場所ヲ」に先行して E に反するが、「都道府県を通じて」の「を通じて」が複合辞として働いており、ヲ格連続であるという認識は薄いと言える。次に、ヲ格連続の許容度が低い例(許容度の平均値 70 以下)を見てみる。

- (13) 光秀は、北国街道を夜を日についで北上しつづけた。[50]  
 (アンケート 1 : No.5)
- (14) 船台には、壮大な鉄の構造物に二千名近くの技師・工員たちが、蟻の群れのようにむらがり、クレーンは上方を大きな鉄材をつかんで往き来していた。[68](アンケート 1 : No.9)
- (15) つまり、あまりの強風が火焰の波を低い谷間をとびこえて通過させてしまったのだ。[55](アンケート 1 : No.16)

---

\*7 文 2005 では、「時ヲ」は「場所ヲ」と同様に、舞台設定の働きをしており、出現位置も「場所ヲ」と同様に「対象ヲ」に先行することを指摘している。

例文(13)は許容度の平均値が50、例文(14)は平均値68、例文(15)は平均値55である。(13)は「北国街道を夜を」が「場所ヲ時ヲ」となっており、同じタイプのヲ格が連続するので、許容度が落ちるのであると考える。一方、例文(15)は「対象ヲ場所ヲ」で、Eに反するので、許容度が低い。しかし、例文(14)はEに反しないにもかかわらず、許容度が低いが、これに関しては今の段階では有効な説明が困難である。ただ、下記のように「上方を」の前に「その」を入れると許容度が高くなるようである。

(14)' クレーンはその上方を大きな鉄材をつかんで往き来していた。

この例に関しては、場面の直示性と関連して検討することが必要であると考えられる。

## 2.2 アンケート2：ヲ格連続を解消した例文の許容度調査

アンケート2では、アンケート1(実例)のヲ格連続を解消して、許容度を調査した。結果は次の《表2》である。

《表2》アンケート2(ヲ格連続を解消した例文の許容度調査)

No	例 文	○	△	×	平均値	変化
1	院長は後手を組んで講堂のなかを歩きながら考えた。	81%	16%	3%	89	-4
2	利兵衛は駅前広場を横切って雨のなかを走って行き、知りあいのラーメン屋で金をこまかくしてきた。	95%	5%	0%	98	18
3	本を読むでもなし、楽しみに費う金もなく、時たま柏木と話すばかりには、それほどの時間を、私は一人で何もせずこいた。	73%	24%	3%	85	-3
4	電話をかけたに行っていて菅野康三郎は遠い径のりをまだ戻っていなかったのである。	73%	16%	11%	81	-6
5 (16)	光秀は、夜を日について北国街道を北上しつづけた。	86%	8%	5%	90	40
6 (17)	部落長の息子の少年は仲間から離れ、林をぬけて坂の急な石道を駆けあがった。	97%	3%	0%	99	26
7	羽を光らせながら日の下を飛んで来た蜂がさつきの花に、少しためらうようにしてから止まった。	84%	16%	0	92	9
8	しかし、袋をかかえて街燈に照らされた夜の道を歩いてゆくと、彼の心は物悲しさで一杯になった。	100%	0%	0	100	1

9	船台には、壮大な鉄の構造物に二千名近くの技師・工員たちが、蟻の群れのようにむらがり、大きな鉄材をつかんでクレーンは上方を往き来していた。	70%	24%	5%	82	14
10	足をすべらせないように注意して敷石道を黙りこんだまま歩きはじめると、陽が濃い霧の層を透かして、熱気のある強靱な光を僕らに投げかけた。	92%	8%	0%	96	9
11	烈しい感情が胸の底からつきあげ、杖で体を支えて幾度か足をふみすべらしながら、まだ雨水の溜っている斜面を私の教区に向かって——そう、それは主から委ねられた私の教区でした——駆けおりました。	81%	16%	3%	89	3
12	音を立ててめん類をすすり込むのは、日本人独特の食べ方で、外国人はこの音に不快感を示すそうである。	95%	5%	0	98	-2
13	その夜、彼は「鉄の槌」のスタンドで、背の高い椅子に坐り、時間をかけて一杯のウイスキーを飲んでいった。	95%	5%	0	98	-2
14	厚生省は介護保険のスタートから2週間、都道府県を通じて市町村窓口に寄せられた苦情などを集計した。	92%	8%	0	96	-1
15	藤原夫人は広い邸内の林を抜けて東夫人を送って行った。	43%	49%	8%	68	-12
16 (18)	つまり、あまりの強風が低い谷間をとびこえて火焰の波を通過させてしまったのだ。	81%	19%	0%	91	36
17 (23)	こんなにも烈しく、言葉を使わずに悲しみと喜びの二つの共存を人間に教えることが出来たのであろう。	70%	27%	3%	84	-8
18 (19)	塩と糠をまぜて約半月乾しあげたのを樽に詰めて漬ける。	95%	5%	0%	98	23
19	武力を使ってバルトの独立要求を封じ込めている最中、北方領土での国境変更を国民に説得する政治指導力があるのだろうかとの見方も否定できない。	84%	16%	0	92	-1
20	ヨーロッパは、たいまつを焚き火花を打ちあげてこの「キリスト教徒の敵」の死を祝い、教会は、神への感謝を捧げる人々に埋まった。	86%	11%	3%	92	1

まず、ヲ格連続の解消による許容度の変化を見る<sup>\*8</sup>。ヲ格連続を解消することによって、許容度が上昇する場合は大幅に上昇する傾向があり、下降する場合は小幅に下降する傾向があった。このことから、ヲ格連続の解消によって許容度が上昇する傾向があると見なすことができよう。

次に、ヲ格連続を解消して許容度が上がった実例を見る。許容度が+20 以上上昇した例文を見ると次のようである。

\*8 許容度(平均値)の変化±5 以下は誤差の範囲とする。(表3)も同様である。



- (16)a. 光秀は、北国街道を夜を日についで北上しつづけた。[50]  
b. 光秀は、夜を日についで北国街道を北上しつづけた。[90]  
(アンケート 2 : No.5, +40 上昇)
- (17)a. 部落長の息子の少年は仲間から離れ、坂の急な石道を林をぬけて駆けあがった。[73]  
b. 部落長の息子の少年は仲間から離れ、林をぬけて坂の急な石道を駆けあがった。[99](アンケート 2 : No.6, +26 上昇)
- (18)a. つまり、あまりの強風が火焰の波を低い谷間をとびこえて通過させてしまったのだ。[55]  
b. つまり、あまりの強風が低い谷間をとびこえて火焰の波を通過させてしまったのだ。[91](アンケート 2 : No.16, +36 上昇)
- (19)a. 約半月乾しあげたのを塩と糠をまぜて樽に詰めて漬ける。[75]  
b. 塩と糠をまぜて約半月乾しあげたのを樽に詰めて漬ける。[98]  
(アンケート 2 : No.18, +23 上昇)

まず、各例文の許容度がどれくらい上昇したか見てみる。(16)はアンケート 1 では、許容度の平均値は 50 であるが、ヲ格連続を解消したアンケート 2 では 90 へと +40 上昇、(17)は 73 から 99 へと +26 上昇、(18)は 55 から 91 へと +36 上昇、(19)は 75 から 98 へと +23 上昇している。(16a)は「場所ヲ時ヲ」、(17a)は「場所ヲ場所ヲ」、(18a)は「対象ヲ対象ヲ」、(19a)は「対象ヲ対象ヲ」であり、いずれも 1.2 節の E に反する例である。すなわち、(16a)(17a)(18a)(19a)はいずれも同じタイプのヲ格名詞句が連続しており、そのヲ格連続を解消することによって、許容度が大きく上昇する傾向にあるということである。このことはいずれも、文 2005 の指摘を支持している。

次に、ヲ格連続を解消して許容度が下がった例文を見る。

- (20)a. 藤原夫人は東夫人を、広い邸内の林を抜けて送って行った。[80]  
b. 藤原夫人は広い邸内の林を抜けて東夫人を送って行った。[68]  
(アンケート 2 : No.15, -12 下降)

(20a)は「藤原夫人」と「東夫人」二人が「林を抜ける」という意味で捉えられるが、(20b)は「藤原夫人」一人で「林を抜ける」という意味となる。すなわち、(20b)の場合、継起の読みが出てしまう。例えば、次のような例文では、ヲ格連続を解消しても、意味に変化はなく、許容度も落ちないと思われる。

- (21)a. 太郎は花子をバスを使って送った。  
 b. 太郎はバスを使って花子を送った。  
 (22)a. 次郎はめぐみをバスを使って迎えに行った。  
 b. 次郎はバスを使ってめぐみを迎えに行った。

(21a)で「バスを使う」のは「太郎」と「花子」であるが、(21b)では「太郎」だけかもしれない。しかし、(22a)も(22b)も「バスを使う」のは次郎だけである。

- (23)a. こんなにも烈しく、悲しみと喜びの二つの共存を言葉を使わずに人間に教えることが出来たのであろう。[92]  
 b. こんなにも烈しく、言葉を使わずに悲しみと喜びの二つの共存を人間に教えることが出来たのであろう。[84](アンケート 2: No.17, -8 下降)

例文(23)においても(23a)は同時的な読みであるが、(23b)は継起的な読みで、(23a)よりも(23b)の方が許容度が落ちる。

さらに、ヲ格連続を解消して許容度が下がるということは、ヲ格連続を妨げない何らかの理由があるかヲ格連続を解消することによって別の意味と捉えられやすいからであると思う。例えば(20)のように、ヲ格連続を解消すれば、継起の読みになってしまう、元の文と意味が違ってくるようなことである。各々のヲ格を積極的にそこに位置させて、結果的にヲ格連続になっても許容される場合があることになるが、これに関しては3節でより詳しく検討する。

### 3. ヲ格連続の許容度調査2

本節では、ヲ格連続の文を作例して許容度調査を行った。アンケート 3 では日本語母語話者 28 人を対象として、ヲ格連続の例文とヲ格連続を解消した例文を並べて、許容度を調査した\*9。アンケート 4 では、日本語母語話者 33 人を対象に、アン

\*9 「ヲ格が連続しないテ節」、「ヲ格が連続しないナガラ節」、「ヲ格が連続するテ節」、「ヲ格が連続するナガラ節」の順に並べた。

ケート 3 の例文を、順番をランダムに配して、調査を行った\*10。ランダムに配した時、許容度に変化があったので、少し述べておく。紙幅の都合上、アンケート 3 及び 4 の結果をすべて載せることはできない。その一部を示したのが《表 3》である。

《表 3》アンケート 3 &amp; 4

No	例 文	[アンケート 3]			[アンケート 4]			平均値	変化	
		○	△	×	○	△	×			
1	太郎は公園をお茶を飲んで歩いた。	25%	57%	18%	54	31%	53%	16%	58	4
2	直子は雨の中を子供を捜して歩いた。	89%	11%	0%	95	94%	6%	0%	97	2
3	拓也は道を手を振って歩いた。	25%	57%	18%	54	24%	67%	9%	58	4
4	剛は道をタバコをふかして歩いた。	29%	54%	18%	52	33%	64%	3%	65	13
5	慎吾は道を歌を歌って歩いた。	21%	61%	18%	52	25%	66%	9%	58	6
6	慎吾は歌を道を歩きながら歌った。	25%	32%	43%	41	9%	53%	38%	36	-5
7	慎吾は歌を道を歩いて歌った。	14%	25%	61%	27	3%	34%	63%	20	-7
8	フランスはスペインの独立要求を武力を (24) 使って封じ込めた。	100%	0%	0%	100	97%	3%	0%	99	-1
9	美喜は葉っぱを絵を描いたように散らした。 (27)	36%	36%	29%	54	25%	56%	19%	53	-1
10	美喜は絵を描いたように葉っぱを散らした。 (28)	82%	11%	7%	88	22%	41%	38%	43	-45
11	彼は暗闇の中をさまようように解決策を探した。	93%	7%	0%	97	84%	16%	0%	92	-5
12	花子はワルツを木の葉が宙を舞うように踊った。 (25)	25%	39%	36%	45	55%	42%	3%	76	31
13	太郎は樹海を海を漂うようにさまよった。	36%	43%	21%	58	16%	75%	9%	54	-4
14	三郎は部屋をおもちゃ箱をひっくりかえしたように散らかした。 (26)	39%	50%	11%	64	70%	27%	3%	84	20

\*10 アンケート 3 では、次のようにヲ格連続の例である(i)と、ヲ格連続を解消した(ii)を並べてアンケートを行った。

(i) 太郎は公園をお茶を飲んで歩いた。

(ii) 太郎はお茶を飲んで公園を歩いた。

これに対して、アンケート 4 では、例文(i)と(ii)の間にある程度距離を置いて、例文の順番はランダムに入れ替えて調査した。

アンケートの結果、《表3》の2番のように、1.2節のEに従う例文は、アンケート3、4両方で許容度が非常に高かった。さらに、《表3》の8番は「対象ヲ対象ヲ」であるが、許容度が非常に高い。

- (24) フランスはスペインの独立要求を武力を使って封じ込めた。 [100 → 99]\*11  
(アンケート 3&4 : No.8)

例文(24)では、「武力を使って」は「武力で」のように道具デ格に置き換えられる。このように従属節が道具の意味を表す場合は、ヲ格連続であっても許容度が高いことが分かる。

さらに、アンケートの結果、ヲ格連続の例とヲ格連続を解消した例とを並べて調査した場合は、ヲ格連続の例文は許容度が低くなるが、ランダムに配した場合は、ヲ格連続の許容度が高くなる例文があることが確認できた。

まず、ランダムにして許容度が大きく上昇した場合を見る。

- (25) 花子はワルツを木の葉が宙を舞うように踊った。  
[45 → 76](アンケート 3&4 : No.12, +31 上昇)  
(26) 三郎は部屋をおもちゃ箱をひっくりかえしたように散らかした。  
[64 → 84](アンケート 3&4 : No.14, +20 上昇)

例文(25)の場合、アンケート3では、平均値45で許容度がかなり低いですが、ランダムに配したアンケート4では、平均値が76で+31も上昇している。ヲ格連続の組み合わせとしては「対象ヲ場所ヲ」で、Eに反するが、「木の葉が宙を舞うように」が様態で、ワルツを踊る様子を表しており、ランダムに配した場合、許容度が大きく上昇している。ということは、ヲ格連続を解消した文と並べると文構造から見て、ヲ格連続は避けたいという心理が働くが、そのような差を感じないアンケート4の場合は、意味解釈にあまり支障を来たさないということであろう。例文(26)も同じ理由で説明できる。

- (27) 美喜は葉っぱを絵を描いたように散らかした。 [54 → 53]  
(アンケート 3&4 : No.9)

---

\*11 括弧内の数値は[アンケート3の平均値→アンケート4の平均値]を示している。

(28) 美喜は絵を描いたように葉っぱを散らした。 [88 → 43]

(アンケート 3&4 : No.10、-45 下降)

例文(27)は「対象ヲ対象ヲ」で文 2005 の E から予想されるように、許容度が低くなるが、アンケート 4 でもあまり変わらないのに対して、(27)のヲ格連続を解消した(28)はアンケート 4 では許容度が平均値 88 から 43 へと-45 も大きく下降し、アンケート 4 ではヲ格連続の(26)がヲ格連続を解消した(27)より平均値 10 ほど高いことが分かる。これは「絵を描いたように」という、「葉っぱ」の様態を表す節を、「葉っぱ」に近い位置に位置させる必要があるからであると思われる。さらに、(28)は、(27)と並べると、構造的な問題から(28)がより自然だと判断するが、文構造を考えないで意味の捉えやすさから見ると、(28)よりは(27)が好まれるのではないかと思われる。

#### 4. まとめ及び今後の課題

本稿では、4 回にわたるアンケートを通して、1.2 節の E、すなわち、ヲ格の出現位置が「状況ヲ」>「場所ヲ」>「対象ヲ」の順になるという指摘が支持されることを再確認した。また、単文・複文いずれにおいても、ヲ格連続を避けるという傾向があるにもかかわらず、ヲ格連続を妨げない例があった。それは、従属節が付帯状況の場合、様態を表す場合、道具性が強い場合である。本稿の調査の範囲では、付帯状況を表す場合、ヲ格連続を解消すると、逆に許容度が落ちることが分かった。このような例では、並行的な事態を表したいにもかかわらず、継起読みになってしまうために不整合が起こるためであると考えられる。その他の例については、どのような理由によってヲ格連続を妨げないかは今後の課題にしなければならない。

#### 参考文献

- 天野みどり 2002 『文の理解と意味の創造』 笠間書院  
加藤重広 2004 「場所格「を」の意味・用法とその周辺」『日本文法学会第 5 回大会発表論文集』 日本文法学会  
カレル・フィアラ 2000 『日本語の情報構造と統語構造』 ひつじ書房  
岸本秀樹 2004 「場所格交替に関与する意味について」『日本文法学会第 5 回大会発表論文集』 日本文法学会

- 金 榮敏 1997 「日韓両言語のいわゆる対格助詞「ヲ」と「ul/lul」について」『筑波応用言語学研究』4 筑波大学文芸・言語研究科応用言語学コース
- 佐伯哲夫 1975 『現代日本語の語順』笠間書院
- 嶋田裕司 2001 「語順と語の多義性」『群馬県立女子大学紀要』22 群馬県立女子大学
- 高見健一 1995 「日英語の後置文と情報構造」『日英語の右方移動構文』ひつじ書房
- 高見健一 2001 『日英語の機能的構文分析』鳳書房
- 高見健一 2003 「機能的構文分析のすすめ—情報構造の視点から—」『日本語学』Vol.22
- 野田尚史 1984 「副詞の語順」『日本語教育』52
- 野田尚史・益岡隆志・佐久間まゆみ・田窪行則 2002 『複文と談話』岩波書店
- Harada, S-i. 1973 “Counter Equi NP Deletion,” Annual Bulletin7, Research Institute of Logopedics and Phoniatrics, University of Tokyo.
- 南不二男 1993 『現代日本語文法の輪郭』大修館書店
- 文 智暎 2005 「ヲ格連続現象について」『韓国日本学会第 70 回学術大会要旨集』韓国日本学会
- 矢澤真人 1983 「状態修飾成分の整理—被修飾成分と呼応及び出現位置からの考察—」『日本語と日本文学』3 筑波大学国語国文学会
- 矢澤真人 1992 「格の階層と修飾の階層」『文藝言語研究 言語篇』21 筑波大学文芸・言語学系
- 矢澤真人 1994 「『格』と階層」『森野宗明教授退官記念論文集 言語・文学・国語教育』三省堂
- 矢澤真人 1997 「発生構文と位置変化構文」『筑波日本語研究』2 筑波大学文芸・言語研究科日本語学研究室
- 山梨正明 1987 「深層格の核と周辺—日本語の格助詞からの一考察」『言語学の視界』大学書林
- 山梨正明 1993 「格の複合スキーマモデル—格解釈のゆらぎと認知のメカニズム」『日本語の格をめぐって』くろしお出版

[付記]

本稿は「韓国日語日文学会 2005 年度夏季学術大会」（於韓国全北大学）で口頭発表した内容を基に加筆・修正を施したものである。発表の席上、参加者の方々から貴重なご意見をいただいた。感謝申し上げたい。

ムン ジーヨン／人文社会科学研究所  
(2005年8月1日 受理)